

平成28年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)
成果報告書 (概要版)

実施機関名 (四條畷市教育委員会)

1. テーマ

すべての子供たちが「わかる・できる」が実感できる授業づくりをめざして、畷の授業スタンダードを確立し、日常の授業改善・個に応じた指導の工夫の実践研究を行う

2. 問題意識・提案背景

四條畷市では、授業改善、家庭学習・生活習慣の改善、フォローアップ対策、小中連携・一貫教育の推進を4つの柱として、平成24年度から学力向上の取組みを進めてきた。平成27年度に第2期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画を策定し、4つの柱の特に授業改善に重点をおき、みんなが「わかる・できる」魅力ある授業づくりの推進を図るため、学力向上担当者を中心に校内の実践研究に取り組んできた。また、学識経験者や指導主事の学校訪問・校内授業研究会での指導助言を通して、「学習内容の明確化・焦点化」「ペアやグループ等の多様な学習形態」「全体での学習内容の共有化」「学びの振り返り」を基本の授業スタイルとした実践が広まってきた。

しかし、授業の型としては改善が図られてきたが、子供の実態に応じた学習活動や個に応じた指導の工夫に課題があった。また、特別な支援を要する子供への適切な支援策を検討するための校内体制についても十分な機能が果たせていない現状であった。

3. 目的・目標

学識経験者や臨床心理士による専門的な視点からの子供の見立てやチェックシートを活用した実態把握を通して、子供の課題を把握する視点やツールの活用方法を身につけること、通級指導教室における個の実態に応じた指導方法を広め、個別の課題や集団行動におけるつまずきに対する支援方を身につけること、特別な支援を要する子供への支援策を検討するために、子供の実態を適切に把握し、支援策を検討・共有できる校内体制を構築することを目標とした。

これらのことを通して、すべての子供が「わかる・できる」を実感できる授業展開ができるような指導力を身につけていくことを目的に取り組み推進を図った。

4. 主な成果

本事業を推進するにあたり、早期支援研究事業の運営委員会・推進委員会を設置し、日常の授業改善、指導方法の工夫、校内体制の構築等めざ

す方向性を確認し取り組みを進めてきた。

成果として、学習内容の焦点化・明確化、学習の流れの視覚化、板書・時間の構造化、ペアやグループを活用した多様な学習形態、振り返り活動を取り入れた授業実践等、日常の授業改善を図ることができた。また、子供の実態把握のツールとしてチェックシートを活用し、適切な支援策を検討・実践につなげるための校内体制の構築が図られた。

このような実践を通して、市内小中学校の教職員が授業のユニバーサルデザイン化を意識して日常の授業や学習環境の整備に努めることができた。

5. 指定校における取組概要

市内7小学校4中学校全ての学校に発達障害支援アドバイザーとして学識経験者や臨床心理士を配置し学校訪問（指導件数 57回）を通して、子供の実態把握と適切な支援策の助言をいただいた。

①学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

○学識経験者の訪問時における授業参観を通して、

- ・教師の指示に対する子供の反応の仕方
- ・座っているときの姿勢
- ・黒板や教師への視線の送り方
- ・文字のバランスや絵画への色の使い方

等から子供の課題を知ることができた。

○チェックシートを活用して

- ・学習面（「聞く」「話す」「読む」「計算する」「推論する」という視点）
- ・行動面（「不注意」「多動性—衝動性」という視点）
- ・行動面（対人関係やこだわりという視点）

という観点で子供の実態把握をし、校内委員会等で適切な支援策の検討を図った。

②学習面（「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」）で困難を示す児童生徒に対する指導方法の改善・工夫

- ・話すことに課題のあった児童に発表の型を示すことで自信をもって発表ができた。
- ・行をとばして読んでしまう児童に対し読む箇所を焦点化（サイドラインをひいた紙を添える）することで、順序良く音読ができるようになった。
- ・教材を可視化、映像化することで、(実験の説明時、手元をモニターに映して説明する。教科書を読むとき指で押さえながら見せる等)、一斉での説明の理解ができ、個別の質問が減った
- ・授業をパターン化（①ワードプラクティス②1・2年の復習③新出事項）することで、授業の見通しがもてるようになった。

③行動面（「不注意」「多動性—衝動性」）で困難を示す児童生徒に対する指導方法の改善・工夫

学識経験者からの助言として、子供の実態に応じて、

- ・体幹を鍛えること

- ・肯定的な声かけ
- ・機能的な教室環境づくり
- ・個に応じたワークシート作成

等の具体的な手立てを指導に活かすことができた。

臨床心理士からの助言として、家庭環境に課題を抱える児童・生徒については、

- ・抑圧された気持ちを知ること
- ・遊ぶことの大切さ
- ・子供らしさを表出させる環境づくり

等子供への接し方について適切な助言をいただいた。これらのことを通して、次のような指導方法を具体的に実践した。

- ・登校してからの行動が身に付かない児童に、登校後の流れを視覚化することで、自分で行動できるようになった
- ・一日の見通しを視覚的に示したり、変更がある時は事前に見通しを持たせたりすることで、落ち着いて行動できるようになった。
- ・学習環境を整え、次の授業の準備を整えてから休み時間に行くように言葉かけすることで、次の授業をスムーズに始められるようになった。
- ・感情のコントロールが難しい児童に、「どこで」「どのように」クールダウンするのか約束を決めるようにした。
- ・人を傷つける言動をする児童に対して、正しい行動をしたときにほめたり、人の気持ちがわかるように示したりした。

6. 今後の課題と対応

平成27年度から本事業を進めるにあたり、校内の担当者を中心に取組を進めることができ一定の成果はみられた。しかし、内容については研究途上であることを踏まえ次のことを課題として今後の対応を考えていきたい。

授業改善については、暁の授業スタンダードの確立をめざし、基本の授業スタイルを示すことはできた。日常の授業においても、その授業スタイルに即し、板書や時間を構造化し、振り返り活動を取り入れた授業づくりができてきた。しかし、型どおりの授業展開では、子供の実態や学習内容に即したものにはならない。授業スタンダードはあくまで標準的なものとして捉え、子供の実態に応じた課題の提示や指導の工夫を今後も模索していく。また、市内で実践例を普及できるよう担当者連絡会を今後も継続的に開催していく必要がある。

また、子供の実態把握から適切な支援までを含めた校内体制については、その機能をもたせた校内委員会を今後も校内組織の1つに明確に位置づけることや校内委員会を進めるコーディネーターの指導力の向上を図ることが課題として考えられる。対応としては、市教育委員会として、担当者育成の研修や実践報告会を開催し、市内全小中学校においての校内組織体制の強化を図っていきたい。

7. 指定校について

(小学校の場合)

指定校名：田原小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	87	3	100	3	88	3	109	3	143	4	125	4
特別支援学級	5	4	1	1	7	5	5	3	7	4	4	3
通級による指導 (対象者数)	0		0		0		0		0		0	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	30	1	2	0	1	1	0		2	39

指定校名：四條畷小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	75	3	92	3	85	3	81	3	95	3	94	3
特別支援学級	7	4	8	5	5	4	3	3	3	3	3	3
通級による指導 (対象者数)	0		1		0		3		2		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	27	1	6	0	1	1	0		1	39

指定校名：四條畷南小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	25	1	22	1	36	1	24	1	31	1	33	1
特別支援学級	2	2	4	2	1	1	5	2	2	2	0	0
通級による指導 (対象者数)	1		1		3		1		1		2	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	11	1	4	0	1	1	0		1	21

指定校名：忍ヶ丘小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	66	2	58	2	81	3	75	2	78	2	81	3
特別支援学級	4	3	2	2	4	4	2	2	5	3	5	4
通級による指導 (対象者数)	0		1		1		0		1		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	21	1	4	0	1	1	0		4	31

指定校名：四條畷東小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	30	1	26	1	37	1	38	1	52	2	47	2
特別支援学級	1	1	5	3	5	3	1	1	2	2	0	0
通級による指導 (対象者数)	0		0		0		1		1		0	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	13	1	2	0	1	1	0		2	22

指定校名：岡部小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	67	3	101	3	91	3	101	3	99	3	99	3
特別支援学級	2	1	5	5	5	4	6	4	2	2	6	5
通級による指導 (対象者数)	0		4		0		1		6		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	28	1	1	0	1	1	0		1	35

指定校名：くすのき小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	65	2	68	2	83	3	77	2	87	3	79	3
特別支援学級	5	4	4	3	3	2	6	5	3	3	7	4
通級による指導 (対象者数)	0		2		1		2		1		6	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	22	1	4	0	2	1	0		1	33

(中学校の場合)

指定校名：四條畷中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数
通常の学級	170		5		185		5		213		6
特別支援学級	9		4		4		3		6		3
通級による指導 (対象者数)	1				0				3		
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	30	1	7	1	1	1	1	1	45

指定校名：四條畷南中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数	学級数	
通常の学級	70		2		98		3		116	3	
特別支援学級	5		3		3		2		1	1	
通級による指導 (対象者数)											
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	22	1	2	1	1	1	1	2	33

指定校名：四條畷西中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数	学級数	
通常の学級	191		5		157		4		148	4	
特別支援学級	5		3		6		4		6	4	
通級による指導 (対象者数)	2				1				1		
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	31	1	2	1	2	1	1	2	43

指定校名：田原中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数	学級数	
通常の学級	108		3		135		4		122	4	
特別支援学級	2		2		4		1		5	2	
通級による指導 (対象者数)	0				0				0		
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	20	1	6	1	1	1	1	1	34

8. 問い合わせ先

組織名：四條畷市教育委員会

- (1) 担当部署 教育部学校教育課
- (2) 所在地 大阪府四條畷市中野本町1番1号
- (3) 電話番号 072-877-2121
- (4) FAX番号 072-877-8300
- (5) メールアドレス gakuyou@city.shijonawate.lg.jp